



公益財団法人

Newsletter of Japan Science Support Foundation

ISSUE 34, July 2021

日本学術協力財団

Newsletter



令和2年度事業報告・収支決算

令和2年度事業報告及び同年度収支決算については、新型コロナウイルス感染の状況下、リモート会議形式にて理事会を6月1日に、評議員会を6月22日に開催し、それぞれ原案どおり、議決、承認しました。

その概要は以下のとおりです。

令和2年度事業報告

1 経常的な法人運営

(1) 学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発（公益目的事業1）

①『学術の動向』の発行

総合学術情報誌『学術の動向』を発行した。同誌には、国内外の学術の動向を特集するほか、日本学術会議の活動状況を紹介し、広く、大学、研究機関、学協会、一般に周知した。

②『学術会議叢書』の発行

学術及び学術研究の成果を社会一般に普及するため、日本学術会議が主催した公開講演会の記録を基に関連資料及び解説を加えて編集した『学術会議叢書』を刊行しており、令和2年度は次の2冊を刊行した。

No. 27 『持続可能な社会への道—環境科学から目指すゴール—』

No. 28 『日本の食卓の将来と食料生産の強靱化について考える』

No. 28 は、公益財団法人一ツ橋総合財団からの助成を受けて、全国約1,500か所の国公立図書館・大学等に寄贈するとともに、賛助会員たる学術団体等に無償配布した。

(2) 学術連携推進事業（公益目的事業2）

①科学者連携事業

日本学術会議主催の講演会、シンポジウム等の事業について、学術普及・啓発事業の一環として協力した。

②学協会に関する実態調査及び調査結果の情報発信

—「データベース『学会名鑑』Web版」

我が国学協会に関する包括的なデータベースである「学会名鑑 Web版」について、一層の利・活用を図るため、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）及び日本学術会議と連携・協力し、収録学協会の拡大及び収録データ事項の充実を行った。

this issue

令和2年度事業報告・収支決算
賛助会員の状況
データベース学会名鑑について
出版物のご案内

公益財団法人日本学術協力財団は、賛助会員と助成金・寄付金を拠出いただいた方々のご厚意により、運営されています。

— 編集・発行 —

公益財団法人

日本学術協力財団

〒107-0052

東京都港区赤坂 4-9-3

TEL 03-3403-9788

FAX 03-5410-1822

URL <http://jssf86.org/>

2021年7月1日発行

(3) 学協会運営支援

日本学術会議同友会、日本生命科学アカデミー、日本農学アカデミー、硬組織再生生物学会等、学術関係団体からの要請を受けて、各団体活動に係る事務の支援を行った。

2 事業運営及び法人財政の改革

(1) 「学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発」(公益目的事業1)の改革

—「科学と社会」に関する発信の一層の強化

①『学術の動向——科学と社会をつなぐ』の改革

同誌については、科学と社会を双方向につなぐ学術誌への改革を基本方針として誌面の刷新を続け、令和2年度は、同年4月号から、新しいコーナーとして、「学術の風景」及び「学術と社会の未来を考える」の掲載を開始した。

②「科学と社会」に関する発信 —「科学と社会研究会」

「科学と社会研究会」(「科学者の集まり」)の議論の成果についても、「科学と社会——科学者の集まり」として『学術の動向』に随時掲載した。

「科学と社会研究会」の議論もさらに進展し、令和2年度からは「第三カテゴリーの研究」(既存の研究支援の枠から外れた「純粋な好奇心」に基づく研究)に関して、同研究の「種」を発掘する調査研究を開始した。

令和2年度においては、コロナ禍の影響から同調査研究の予定どおりの進捗は困難であったが、令和3年度以降の本格的な調査研究実施に向けた準備的な検討を重ねた。

③異分野交流研究活動と社会発信

現在の若手科学者が置かれる劣悪な研究環境と閉塞状況からの脱却・転換を目指す取り組みとして、令和2年度から、原田弘二基金による若手科学者異分野交流研究活動の運営を開始した。

同年度に予定した異分野交流研究会合は、コロナ禍の影響から、原則として、オンライン方式により運営し、若手科学者等関係者が対面により直接交流する必要があるワークショップ、シンポジウムについては、当面、開催を見合わせ、次年度以降、さらに企画を検討することとした。同年度におけるこれら若手科学者異分野交流研究活動の展開をふまえて、『学術の動向』に特集等関係記事を掲載し、活動の成果を社会発信した。

(2) 学協会支援事業の充実・強化

連載企画「学協会の今——社会と向き合う」の充実

『学術の動向』の連載企画「学協会の今——社会と向き合う」により、各学協会の当面する課題、社会的活動等に関する情報共有の充実を図った。

(3) 法人財政の改革

上記の事業展開を支える法人財政の改革として、以下の取り組みを推進した。

①賛助会員拡大策

当財団事業の今後の展開を支援するよう、日本学術会議会員・連携会員、学協会等関係方面に対し賛助会員加入を求めた。

②『学術の動向』有料購読者拡大

上記の取り組みに並行して、新しい『学術の動向』の読者層拡大に向け、日本学術会議会員・連携会員、学協会、大学、企業等への購読要請を行った。

③寄付金受け入れ

「科学と社会」に関する議論と発信を一層強化するための財政基盤として、賛同する企業から引き続き寄付金を受け入れ、特定資産「『科学と社会』プログラム資産」の充実を図った。

さらに、「第三カテゴリー研究の種を発掘するための調査研究」に賛同する研究助成財団から寄付金を受け入れて、特定資産「第三カテゴリー研究の種発掘プログラム資産」を設置し、同調査研究の実施に充当することとした。

令和2年度収支決算

令和2年度決算の要点は、以下のとおりです。

令和2年度正味財産増減計算書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

(単位：千円)

科目	決算額
I 一般正味財産増減の部	
1 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	324
受取会費	16,632
事業収益	8,392
受取補助金等	1,500
受取寄付金振替額	8,452
雑収益	21
経常収益計	35,321
(2) 経常費用	
事業費	27,769
管理費	8,164
経常費用計	35,933
当期経常増減額	△612
2 経常外増減の部	
(1) 経常外収益計	0
(2) 経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△612
一般正味財産期首残高	8,145
一般正味財産期末残高	7,533
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	8,500
一般正味財産への振替額	△8,452
当期指定正味財産増減額	47
指定正味財産期首残高	142,348
指定正味財産期末残高	142,395
III 正味財産期末残高	149,928

賛助会員の状況

当財団の令和3年3月31日現在の賛助会員数は、次のとおりです。(単位：人・法人)

	区分	個人	学術団体	企業等	合計
元年度	入会	8	4	1	13
	退会(逝去含)	75	1	0	76
	年度末現在	1,038	131	2	1,171
2年度	入会	132	4	0	136
	退会(逝去含)	69	3	0	72
	年度末現在	1,101	132	2	1,235

賛助会員の皆様方にはいつもご支援いただき、誠にありがとうございます。

データベース学会名鑑のデータ更新について

データベース学会名鑑については、日本学術会議、国立研究開発法人科学技術振興機構、公益財団法人日本学術協力財団の協力の下、ウェブサイトのデータを更新いたしました。

現在、学会名鑑に掲載しておりますデータは、日本学術会議が令和2年度に「協力学術研究団体」を対象に行いました実態調査を基としております。

各学術団体の関係者の皆様におかれましては、学協会の活動を発信するとともに科学技術情報の効率的な流通を目的として、引き続き、本事業にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、令和3年度調査は、本年10月に予定しております。

URL : <https://gakkai.jst.go.jp/gakkai/>





学術会議叢書最新号
※お申込みは FAX にて
03-5410-1822

A5 判、264 頁
1,980 円 (税込・送料別)
賛助会員は割引価格
1,782 円 (税込・送料無)

出版物のご案内

※お申込みは FAX にて 03-5410-1822

品切れを除く近刊の書籍については
Amazon からもお買い求めいただけます。



学術の動向

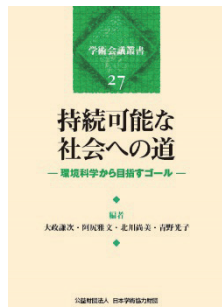
A4 判・本体価格 792 円 (税・送料込)
年間購読 8,383 円 (税・送料込)
賛助会員は毎号 1 冊無料配布

- 21 年 4 月号 特集：人文学の国際化と日本語
一言語・文学研究の立場から—
5 月号 特集：学術研究と科学技術基本法の改正
6 月号 特集：地方学術会議

学術会議叢書

A5 判・本体価格 1,980 円 (税込・送料別)
賛助会員は割引価格 1,782 円 (税込・送料無)

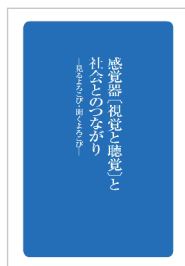
- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| 2 科学技術教育の国際協力ネットワークの構築 | 22 地殻災害の軽減と学術・教育 |
| 9 医療事故は予防できるか | 23 子どもの健康を育むために |
| 12 どこまで進んだ男女共同参画 | 24 〈いのち〉はいかに語りうるか？ |
| 16 食の安全を求めて | 25 IT・ビッグデータと薬学 |
| 17 ダーウィンの世界 | 26 社会脳から心を探る |
| 18 科学を文化に | 27 持続可能な社会への道 |
| 20 放射能除染の土壌科学 | 28 日本の食卓の将来と食料生産の
強靱化について考える |



日学新書

新書判 本体価格 825 円 (税込・送料別)
賛助会員は割引価格 743 円 (税込・送料無)

- 2 感覚器 [視覚と聴覚] と社会とのつながり



公益財団法人日本学術協力財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-3
TEL 03-3403-9788
03-5410-0242
FAX 03-5410-1822
URL <http://jssf86.org/>

◎ 当財団の運営、ニュースレター等に関するご意見、ご要望がございましたら、当財団総務担当までお寄せください。
今後の参考にさせていただきます。皆様方のご意見、ご要望をお待ちしています。